

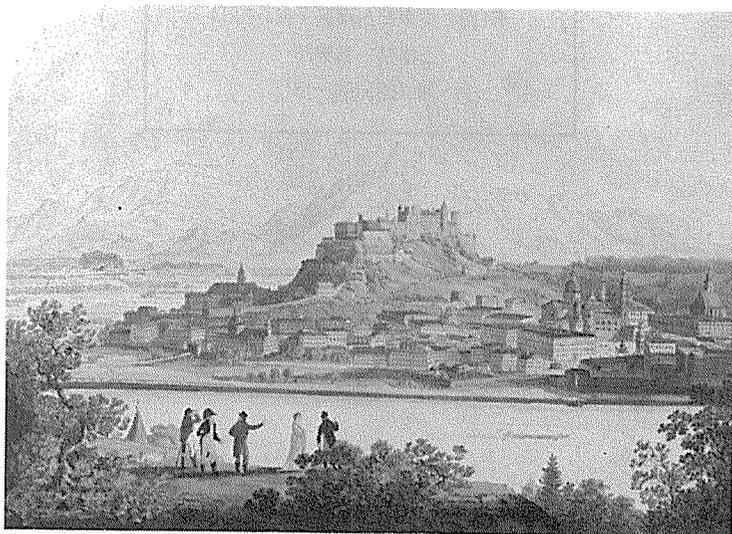
*Aus Mozarts letztem Lebensjahr*

---

# AMADEUS

1791

Günter Zobel  
Tomoyoshi Takatsuji



**SANSYUSYA**

## まえがき

この教科書は編著者2人が、かねがねモーツァルトについて抱いていた考えにもとづいて書き、編んだものです。その発想の源は映画〈アマデウス〉にあるかも知れませんが、サリエリによるモーツァルト毒殺説は、学界ではナンセンスと片付けられているにも拘らず、何年かの周期をおいては復活しています。その時期をうまくとらえ、みごとに当てたのがミュージカルと映画〈アマデウス〉だったのでしょう。現代の目から見て余りにも早かったモーツァルトの死。彼の夭折をいたましく思いもし、また不満を抱く私たちの心を見すかしたようにしてでっち上げられた、あの映画は、イデオロギーと化したモーツァルト伝説を巧みに操作しながら、いくつかの点で馬脚をあらわしています。

この教科書は〈アマデウス〉伝説を正面切って否定しようとするものではありませんが、彼の生涯を述べながら、ことに重要なその最晩年にスポットライトを浴びせ、いささかなりともその問題点をとり出して見ました。とは言え、この最後の時期を含めて、モーツァルトの一生が悲しいことだけに満ちていたわけではありません。教室では、ドイツ語の文法談議もときには小休止して、ビデオ、CD、レコード、また実際の演奏をまじえて、楽しい授業を行なっていただきたいものです。先生がたの創意はもとより、学生の皆さんからも提案していただいてモーツァルト死後200年にふさわしい一連の授業がこの教科書をよりどころに生まれれば、編著者たちの大いなる幸せです。

注釈は、文法と事項についてくどくならない程度につけました。ケツヒェル番号は、モーツァルトについての研究が進展するにつれて変化する(何故なら年代順の番号があるので)ものですが、本文中ないし注では、必ずしも最新の成果によっていないことをお断りしておきます。

そえた写真などを含めて、色々と三修社の榊 豊彦さんにご協力を頂きました。

1991年 初春

編者識

## INHALT

1. Geburt und Beginn...	6
2. Natur und Wesen, Herkunft und Familie	8
3. Lebenslauf und Werdegang bis 1790	10
4. Glanzlichter des Schaffens bis 1790 <i>Sinfonien und Konzerte</i>	13
5. Glanzlichter des Schaffens bis 1790 <i>Opernwerke, hier verkannt—dort gefeiert!</i>	16
6. „Komm, lieber Mai...“ <i>Die ersten Monate des Jahres 1791</i>	21
7. „... und mache die Bäume wieder grün!“ <i>Der letzte geschäftige Frühling</i>	24
8. „... Dein Dich ewig liebender Mann...“ <i>Mozart im Juni—Juli 1791</i>	27
<i>Exkurs: Kintopp und Wirklichkeit</i>	31
9. Opera Seria „Titus“ —ein politisches Zwischenspiel <i>August/September zwischen Wien und Prag</i>	33
10. „Adelsdämmerung“ und „Kaisertreue“? <i>Vom „Don Giovanni“ zum „Titus“ in Prag</i>	36
11. „Die Stunde schlägt! Lebe wohl! Wir sehen uns wieder!...“ <i>Herbst 1791: allein mit dem Erfolg</i>	39

12. „Klinget, Glöckchen, klinget . . . !“

*Auch Salieri ließ sich bezaubern.*

13. Kantate, Kyrie und Lacrimosa

14. 5. Dezember 1791

15. „Zauberflöte“ und Ideenzauber ohne Ende

Anmerkungen

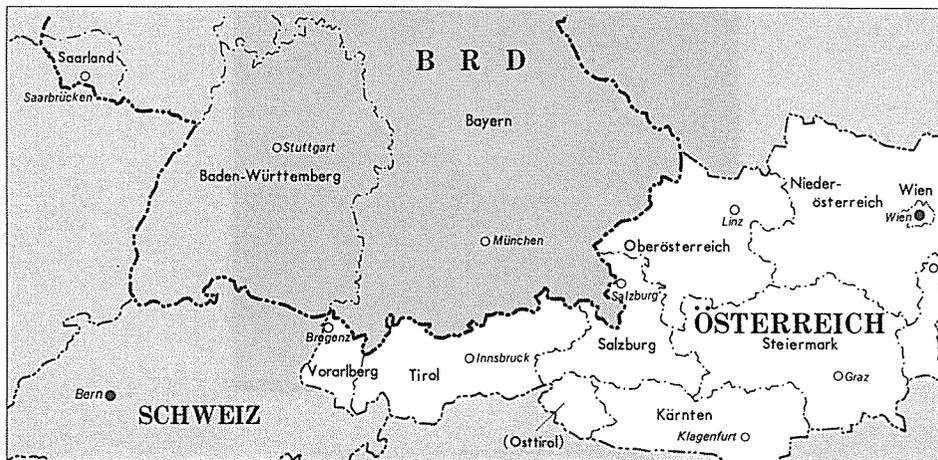
42

46

49

52

56



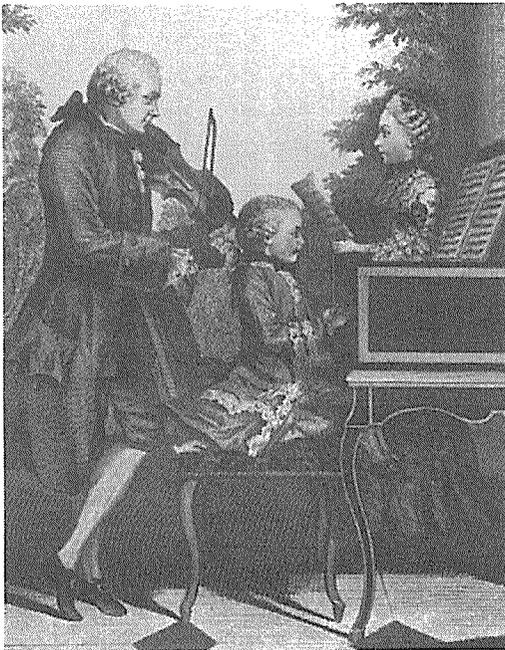
# 1. Geburt und Beginn...

Geboren: 27. Januar 1756\* in Salzburg\*,

Vater Leopold Mozarts\* und Mutter Anna Maria\* Mozarts  
siebtes und letztes Kind:

Wolfgangus Theophilus\*, vor allem

- 5 Wolfgang Amadé, auch später allgemein  
Amadeus genannt.



▲左から：  
Leopold, Amadeus, Nannerl

Vater ist Lehrer : statt Kinderspiel\*—  
nur Klavier-, Geigen- und Flötenspiel.  
Kein Kindergarten damals — aber Kinderkonzert !  
Keine Schule, Vater ist immer und allein  
Hauslehrer, Pädagoge und Manager\*.

5

1761 : erstes Werk, Menuett\* (KV\*1),  
und erstes Auftreten.

1762 : München\* und Wien\*, Reise mit Vater Leopold  
und Schwester „Nannerl\*“ (Maria Anna)  
als Wunderkinder der Musik.

10

1763 : die Familie reist nach Paris,  
über München, Augsburg\*, Heidelberg\*  
und Frankfurt\* : hier ist Goethe\*, auch  
ein Wolfgang, mit 14 Jahren im Konzert.

*Fazit :*

15

*Mit fünf schon Debüt, mit sieben ein Genie.*

## *2. Natur und Wesen, Herkunft und Familie*

Lesen und Schreiben, Rechnen und Religion,  
alles lernt er vom Vater, vor allem aber  
Notenlesen\* und -schreiben, Komponieren und Musizieren.

Streng ist der Vater, manchmal hart sogar :

- 5 Ruhm und Reichtum, Ehre und Vermögen sind  
das Ziel der vielen Wunderkinder-Reisen\*.

In Salzburg ist der Vater Violinist in der Hofkapelle\*,  
wird 1757 zum Hofkomponisten.

Weit und hoch gehen Planen und Streben für den Sohn...

- 10 Gütig und heiter ist die Mutter,  
fröhlich und freundlich, lieb und lustig.

Mozarts Heiterkeit und Humor,  
Lustigkeit und Lachen sind von der Mutter.

Witz begleitet den Menschen Mozart auf allen Wegen :

- 15 in Sprache, Brief und Rede, in Gesellschaft und Partnerschaft.

Er fürchtet Einsamkeit, haßt Leere,  
braucht immer Menschen, Kommunikation,  
Freunde und Freude...

Im Juli 1778 Tod der Mutter\* in Paris vor  
Mozarts Augen. Nun ist der Tod schon  
kein Unbekannter mehr.

5

Zu Geist und Bildung vom Vater,  
Herz und Frohsinn der Mutter  
kommt früh auch Todesahnung...



▲田 · Anna Maria

## Anmerkungen

### 1.

- S. 6 Z. 1 27. (siebenundzwanzigster) **Januar 1756** : モーツァルトがザルツブルクの大聖堂で洗礼をうけたのはその翌日。
- 1 **Salzburg** : 元来、ザルツブルクは宗教領主である Fürsterzbischof が治める大司教領であったが、1803年に世俗化され、1816年にオーストリアに編入され、1920年に連邦の一州となった。州都ザルツブルク(人口15万)は美しい風光の中にあって、17世紀以来もっとも美しいバロック建築の町と言われる。
  - 2 **Leopold Mozart** : モーツァルトの父レーオポルト (1719—87) は音楽家、ザルツブルクの大神父の宮廷に勤務していた。すぐれたヴァイオリニストで、その「ヴァイオリン教則本」は当時のベストセラー。
  - 2 **Anna Maria** : モーツァルトの母アンナ・マリーア (1720—78)、旧姓 Pertl。彼女はザルツブルクに近いヴォルフガング湖畔の St. Gilgen で生まれた。
  - 4 **Wolfgangus Theophilus** : モーツァルトが誕生の翌日に与えられた洗礼名はこれにさらに Johannes Chrysostomus(彼の守護聖人の名)も加わっていた。モーツァルト自身は Wolfgang Amadé という形を使ったが、この後半はギリシア語に由来する Theophilus(神に愛された)をフランス語に直したもの。今日では響きのバランスとリズムの点で Wolfgang Amadeus が一般に用いられる。
- S. 7 Z. 1 **Kinderspiel** : Spiel はここでは「遊び」だが、次の行の Klavierspiel 等では「演奏」の意味。
- 5 **Hauslehrer, Pädagoge und Manager** [mɛ̃nɪdʒɐr] : 父は時流にあわせて、二人の子を神童として売り出したマネージャーだったが、それよりも独力で二人に教育を施したのは当時としては極めてユニークだった。
  - 6 **Menuett** : メヌエットは穏かな3拍子の舞曲。モーツァルトは1761年にピアノのためにいくつかのメヌエットを書いたが、それらが彼の最初の作曲と見られる。
  - 6 **KV** : Köchel-Verzeichnis と呼ばれる。彼の作品には1862年に Ludwig von Köchel (1800—77) が作成した「年代順主題目録」Chronologisch-thematisches Verzeichnis sämtlicher Tonwerke Wolfgang Amadeus Mozarts (最新版は1964年の改訂第6版)によって作品番号(ケツヒェル番号)がつけられ、例えば Köchel-Verzeichnis I(eins) などと呼ばれる。
  - 8 **München** : ミュンヘンは、モーツァルトが父と姉とともに3週間の最初の演奏旅行(1762年1月12日出発)で訪れた頃はバイエルン選帝侯領の首都。
  - 8 **Wien** : ヴィーン(オーストリア帝国の首都)が彼の第2回の楽旅の目的地。母も加わって1762年9月18日にザルツブルクを離れた一家は Passau, Linz に立ち寄り、ヴィーンでは貴族の館で演奏したり、公開の演奏会も開いて姉弟とも神童ぶりを発揮。また女帝マリア・テレジアのもとで御前演奏。面目を施し、1763年1月5日にザルツブルクに帰着。
  - 9 **Nannerl** : モーツァルトの姉 Maria Anna(1751—1829)の幼時の愛称。ピアノ演奏では神童ぶりを見せた。1784年8月、Johann Baptist von Berchtold

zu Sonnerburg 男爵(1736—1801)と結婚。晩年はザルツブルクで淋しく「大モーツァルトの姉」として暮らした。

- 12 **Augsburg** : アウクスブルクはミュンヘンの西100キロ余りにある中都市、モーツァルトの父はこの町の出身であり、伯父の Franz Alois はここに住んでいた。彼の娘 Maria Anna Thekla, das „Bäsele“とのちにモーツァルトは親しくなる。
- 12 **Heidelberg** : ドイツ・バーデン州の美しい大学都市。ネッカー河にそって17世紀以来の町の姿を残す。
- 13 **Frankfurt** : 正確には Frankfurt am Main (マイン河ぞいのフランクフルト)。ドイツ中世以来の重要な商業都市で、歴代の皇帝の戴冠式がよくここで催された。その戴冠式のためモーツァルトは2度この町に来た。
- 13 **Goethe** : Johann Wolfgang (von)。ドイツの文学者 (1749—1832)。この町に滞在したとき、当時14歳だったゲーテは7歳のモーツァルトの幼ない姿を心にとどめ、60年近くものちにそのことを秘書のエッカーマンに語った。

## 2.

S.8 Z.3 **Notenlesen** : 「楽譜を読むこと」。

- 6 **Wunderkinder-Reisen** : 神童モーツァルトは6歳から、その年齢にしては苛酷な演奏旅行を強いられた。このような生活がのちの彼の健康に害となったことは当然だが、と同時に当時としては稀有なほどにヨーロッパ各地の音楽の状況を身をもって体験できたのである。
- 7 **Hofkapelle** : 「宮廷管弦楽団」。君主の宮廷にもともと、彼専用の礼拝堂 Kapelle があり、その典礼のために音楽を奏し、歌う音楽家たちも Kapelle と呼ばれた。今日、宮廷は解体したので Staatskapelle (国立管弦楽団) と改称したのも多い。

S.9 Z.4 **Tod der Mutter** : 1777年、母と2人でマンハイムとパリへの演奏旅行に出で、翌年7月3日、パリで母は死去。

## 3.

S.10 Z.2 **England** : イギリスには第3回の旅行のパリ滞在のあと、1764年4月にパリを発ち、ドーヴァー海峡を渡ってロンドンに着いた。翌年6月24日発、帰路につく。

- 2 **Die erste Sinfonie** : 「第1交響曲」、変ホ長調(KV16)。3楽章形式、オーボエ2、ホルン2、弦楽合奏という小編成の曲。1764年から65年にかけて成立。
- 3 **Johann Christian Bach** : ドイツの音楽家(1735—82)、1762年からロンドンで活躍、王室の musicmaster を務め、「イギリスのバッハ」と呼ばれた。
- 4 **Johann Sebastian (Bach)** : 「大バッハ」と呼ばれた、Bach一族の中心をなす、ドイツの大音楽家(1685—1750)、ライプツィヒのトーマス教会のカントル。息子たちも優れた音楽家で Wilhelm Friedemann(1710—84)、Carl Philipp Emanuel(1714—88)、Johann Christoph Friedrich(1732—95)らがいる。
- 4 **Bach** : むろん Johann Christian のことである。
- 8 **heim** : ← heimkehren
- 9 **Konzertmeister** : 「コンサートマスター」、オーケストラの第1ヴァイオリンのリーダー。バロック時代にはオーケストラに指揮者がいず、コンサートマ